

1. 審議の経過

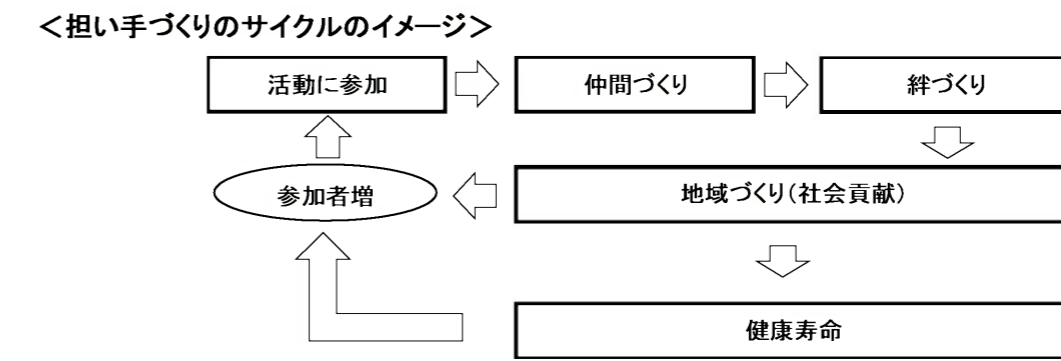
項目	考えられる審議テーマ		審議結果
	提言・課題の内容	考えられる審議内容	
① 第5期麻生区区民会議「市民活動・地域活動の活性化部会」からの提言のフォロー	提言1 ○誰もがボランティアを身近に感じ、ボランティア活動に参加しやすい機運を高めるために「ボランティアのまち・あさお」を掲げ、掲げたいことを提案します。	・活動参加の機運を高めるためのキャッチフレーズづくり ・キャッチフレーズの周知方法 など	○活動へ参加する土壌をどのようにつくるかを検討する。
	提言2 ○「あさおボランティア情報センター(仮称)」を拠点とした、ボランティア参加のネットワークを構築することを提案します。	・あさおボランティア情報センターの具体的な任務、構成(参加団体)、役割分担 ・組織化までのプロセス など	○ボランティア情報センターの活動内容等を検討する。
	提言3 ○ボランティア情報の効果的な発信とともに、情報の一元化の取組を進めることを提案します。	・ボランティアに関する情報をより多くの区民に届ける効果的な発信方法 ・多くの団体が掲載された様々な総合冊子やデータベースの存在の周知方法 など	○現在進められているデータベースの作成に任せる。
	提言4 ○相談窓口の連携、入門講座や体験講座の開催等を通じて、ボランティアに関心を持った区民に対して「参加への一押し」をすることを提案します。	・区内で開催されている入門講座や体験講座をより多くの区民に届ける効果的な発信方法 ・入門講座や体験講座などの参加者が活動に参加するための方法の検討 など	○活動への参加のきっかけをどのようにつくるかを検討する。
② 地域の見守り・コミュニケーションに関する課題	○地域での見守りや支え合いの場づくり、人材、地域の顔が見える関係づくり。	・地域での見守りや支え合いの場や人材、環境、仕組みがあれば、地域での見守りや支え合いができるのか。 など	○活動へ参加することによる「仲間づくり」、「絆づくり」を考える。
	○見守りのためにも多世代交流が必要。	・多世代交流ができる場、環境、仕組みはどのようなものか。	

区民会議アンケート、全体会議、第一回企画部会で出された意見

2. 審議テーマ

○活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくり

○多くの麻生区民が、地域活動に参加するための方法を検討する。そして、区民が地域の担い手の一員である意識を持ってもらうようにする。
○具体的には、下記の図のように地域活動を通じて仲間ができ、絆が生まれ、地域が活性化する。そして、そのような活動によって健康寿命が実現される(担い手づくりのサイクル)。これを麻生区でどのように具体化するかを検討する。



3. 地域活動の担い手と対象

○地域活動の担い手について…多くの区民(世代に関係なく)が地域活動に参加するための方法を検討するが、まずは普段から地域にいるシニア層や子育てがひと段落した女性を対象とする。
○対象(貢献する相手)について…対象(貢献する相手)については人だけでなく、緑や教育なども含めた地域に関わるもの全てとする。

4. 審議の方向性と今後の検討内容

・まずは、地域活動へ参加するための「動機」や「きっかけ」をどう作るかを検討する。
→近年は、「働き方改革」や「プレミアムフライデー」など仕事ばかりでなく家族や地域にも目を向けて行こうという機運にもなっているので、誰もが地域活動に参加できる機会をつくる必要がある。
→また、活動参加を促すためには、活動に対する「共感」が大事であるという意見が出された。
○今後の具体的な検討内容として、次のような意見が出された。今後は、これらを踏まえて検討する。

- <今後の検討内容に関する主な意見>
- 活動をPRする機会、知る機会を増やす仕組みづくり(例: 団体と関わる機会や SNS の活用)
 - 活動拠点の確保に関する検討の必要性(例: 区内の行政施設、民間施設の活用等)
 - 活動に参加する方の負担を減らすための仕組みづくり(例: 交通費の対応等)
 - 人材の掘り起こし・育成の必要性(例: 地域コーディネーターやリーダーの発掘・育成)
 - 活動のキーマンと担い手となる人を結びつける仕組みづくり(例: 興味がある人が集まる場)
 - 参加を促すことや参加のハードルを下げるための仕組みづくり(例: 講座(アクティブシニア講座やこすぎの大学など)の開催、キャッチフレーズ(健康寿命))
 - 趣味や住んでいる地域から参加につながる仕組みづくり(例: 趣味グループ、町内会等)等